

## 【全体報告会・パネルディスカッション】



- コーディネーター 岸井 隆幸 ((社)日本都市計画学会会長)
- パネリスト 大谷 新太郎 (阪南大学国際観光学部准教授)
- 横山 葵 (NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)
- 田端 和彦 (兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科教授)

**岸井** 先ほど3つの分科会に分かれて、4団体もしくは5団体で意見交換をしていただきましたが、全体ではまだ共有できておりませんので、それぞれのコメンテーターをお務めいただいた先生方から、各分科会の様子等を簡単にご紹介いただいて、できれば共通の話題があれば、この場でぜひ意見交換してみたいと思います。

まず、観光交流分科会の大谷先生からお願いできますか。

**大谷** 第1分科会を担当させていただきました、大谷でございます。5団体からの発表がありました。それぞれ簡単に見ていきたいと思います。

まず、「万願寺地区の田舎風情を生かしたまちづくり」ということで、NPO法人原始人の会に発表いただきました。イベントがきっかけとなって、メディアでの情報発信に成功したこともあり、人が足を運ぶようになりました。今は、濁り酒の製造販売、古民家の宿泊体験、地元料理という3つの収入源になる取り組みをされ、成果を上げられているそうです。加えて、地域の若者が演劇を行ったり、男女交流イベントをされたり、若者が集い交流する仕組みもご提案されています。また、コミュニティバスの取り組みもされています。

2組目は「もてなし空間、歴史のまち、憩いのみち」に向けてと題して、「うるわしのみち愛宕古道街道を良くする会」推進協議会のお二人にご発表いただきました。地元の小中学生や嵯峨芸術大学の学生が、行灯づくりワークショップ・行灯イベントへの参加を通して、地域で行う活動に関する情報や課題の共有をされています。地域の子どもや若者を取り込んでいく、一緒に地域の資源を磨く活動にかかわってもらっているということが非常に面白いなと思ってお聞きしました。

3組目は「ソーシャルまちおこしICTー地域の人を巻き込んでコンテンツ制作ー」と題して、京都フラワーツーリズム合同会社の高木様にご発表いただきました。iPhoneやスマートフォンが爆発的に普及していますが、こういった端末で最新の情報を配信される仕組みをご紹介いただきました。地域の魅力を知っている人がそれを伝えていく、発信して行く仕組みを簡単にすることを目標に取り組みされているそうです。

4組目は「びわ湖一周からはじまる自転車普及社会へ」と題して、輪の国びわ湖推進協議会の福江様にご発表いただきました。びわ湖を自転車で一周することを観光資源とされ、それに対し、認定証の発行や、訪れた方が地域の飲食店、宿泊施設等を回遊するようなWeb・モバイル端末でのナビゲート情報の発信など、様々な動機付けをされています。また、ガイド付きの自転車周遊イベントの開催や公式ガイドブックの発行など、よりびわ湖を自転車で回るということに付加価値を持たせようと工夫なさっています。

5組目は、4組目と同じご発表者ですが、違うお立場で、「高齢者を対象とした自転車タクシーによるコミュニティ輸送事業」と題して、NPO法人五環生活の福江様にご発表いただきました。高齢化の問題を抱えている地域で、自転車タクシーを主に福祉に生かしていこうというものです。週末には観光客の利用も促していくという取り組みで、例えば、価格設定や会員制度などで、特に高齢者の方が利用しやすい仕組みをご提案されています。まだまだ利用が浸透しているとは言えず、これからこの良い取り組みをどのように浸透させていくかが課題だとおっしゃっていました。

自由討論ですが、それぞれの地域で共通する課題として、自転車タクシーによる地域での輸送、あるいはコミュニティバス、こういう良い取り組みをしているのに、なかなか利用していただけない。それをどのように利用を促していくのか。例えば、情報発信の仕方とか、バスやタクシーの移動情報をどのように人々に伝えていくかなど、少しずつ解決できそうなことがあるのではないかという議論につながりました。

全体の発表を通じて、地域の資源を磨き、それを伝えていこうという段階まで、既にいらっしゃる地域がほとんどだったと思いました。地域の若者や、第三者的な大学生を巻き込もうという工夫もされている印象を受けました。一方で、そういった取り組みである程度成果を出しているが、これから先、例えば、利用者を増やす、参加者を増やす、一緒に担ってくれる人を増やす、そういうところでなかなかよい展望がみえない、この先どのような仕掛けが必要かという共通した課題を抱えていらっしゃるとお見受けしました。

おおよそ、第一分科会はそういったお話でした。

**岸井** はい。どうもありがとうございました。続いて、地域資源活用分科会の横山さんから発表をお願いします。

**横山** 地域資源活用分科会は4つの団体に発表をいただきました。

最初は堺市から「堺市中区フィールドミュージアム構想」ということで、中区ふれあい事業推進委員会、中区域まちづくり考房歴史文化グループの北野氏に発表していただきました。これは、地域全体を博物館としてとらえ、地域資源を展示品として、地域住民自らが地域の人たちに説明するということがされています。今後の課題としては、持続・波及・次の世代への継承を視野に入れて活動をしていくこととご発表をいただきました。

次に橿原市から「今井町の空き町家を活用支援によるまちづくり」ということで、NPO法

人今井まちなみ再生ネットワークの米村氏からご発表いただきました。地域住民だけではなく、建築の関係の方、学生、教育関係者、行政などと一緒に、内外からの支援を受けてまちなみ再生に取り組み、「まちなみ通信」の発行や「空き屋バンク」事業、生活体験用滞在施設「今井庵・楽」の運営などの中で、まちづくり会社のイメージ化や、空き家情報の一元化の事業に乗り出しているというお話をご紹介いただきました。

3番目は吹田市から「歴史的古民家を活用したまちづくり」ということで、NPO法人吹田歴史文化まちづくり協会の尾浦理事長からご発表いただきました。改修した古民家を文化拠点として、自分達だけでやるのではなく、公募市民や有志の方々、ボランティアなど、いろいろな人を巻き込み関わりをもっていただいて、施設を生かし運営していく取り組みをされているなかで、一時的なイベントではなく、継続的な教室につなげていくことを常に考えるという、まさに経営者の感覚で事業をおこなっているというお話を伺いました。

4番目は、大阪市から「近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による北船場の都市再生」ということで、船場アートカフェの高岡氏からお話をいただきました。ここは大阪市立大学がフィールドとしてとらえて、古いまちなみに賑いを取り戻すことを目的に、船場の良さを生かしつつ、特に建築に関して、その美しさをきちんと伝え継ぐと同時に、船場独特の老舗とのコラボやアートイベントなどの取り組みをしていることをお伺いしました。この4つの発表の後、自由討議では、どのように人を集めてくるか、ボランティアの問題、さらに経済活動についてどうしていくのか、自立していくにはどうしていくか、モチベーションをどのように向上させるのかという話をしました。

**岸井** それでは最後に、地域コミュニティ分科会の田端先生からご紹介をお願いいたします。

**田端** それでは、4つの団体からご報告がありましたので、一つずつみていきたいと思います。

1番目は大和郡山市の「大和郡山市誇りを持てるまちづくり」です。環境という概念を4つに広くとらえ、様々な団体が参画できるようにしたところが特徴です。地球環境では出前講座など、自然環境では街路樹の剪定作業、生活環境では河川敷のゴミ拾い、これには河川管理者の違いによる行政の壁に直面したという話がありました。歴史文化環境では様々な人に呼び掛けて価値を認める百景をつくられました。そしてこれを利用して、今後活動していくというような話でした。

2番目は長岡京市の「“チームアゼリア” 商店街から発信する地域協働の環境まちづくり」です。商店街にある街路灯を環境に配慮したLED灯に変えたい。しかし、当初は冷蔵庫用を使うことになり、自分達で開発しようというところからチームアゼリアが結成されました。取り組みにおいて、子どもを巻き込むところに大きな特徴がございました。チームアゼリアではLED灯以外にもいろいろなことに取り組んでおられますが、LED灯のインパクトに匹敵するものがあまりないというところが悩みの種だそうです。

3番目は奈良県山添村の「岩屋地区の『いなか市』を活かしたむらおこし」です。いわゆる朝市を使った地域活性化です。耕作放棄地がある。しかし野菜を作って売れない。隣にお裾分けしても隣も困る。このような状況の中で何をすればいいのか、議論をしても議論が煮詰まるばかりで進まない。「えいやー」と村長が近くの巨大な団地に売ったらとアイデアを出したということです。朝市は2~3万円の売り上げと言われるが、ここは8~20万円と相当な額を売り上げとなったことから、特に高齢者が元気になったということを知っています。

4番目は大阪市の「南港生きもの発見隊&南港生きもの育て隊」です。発表していただいたNPO法人南港ウェットランドグループは、南港野鳥園の指定管理者で、渡り鳥の中継地となっている干潟を守っていくという専門的な能力を持ったNPOです。取り組みを行う上で、ボランティアの人達とどのように付き合っていけばいいのか、様々な難しい課題があるそうです。取り組みの中では、レンジャーを置いて、子ども達を対象とした「生きもの発見隊」の開催など、市民も参加してもらおう仕組みを作っているということです。

自由討論において、フロアから「どうやって人々を説得していけばいいのですか」というご質問がありました。

1番目のところは、街路樹を剪定すると葉が落ちて迷惑だと言う近所の方に対して、家の前の街路樹を清掃するというのは、道路という利便性を与えられている、いわば応益、益に応じるものだ。なおかつ、きれいにしておけば、まちの価値が上がる、不動産の価値も上がるのだと、理論的というか理にかなった説得をされ、ある程度分かっていただいた。また、行政がなかなか対応してくれない。

2番目のところは、行政の中にも殻を破りたいという人がいる。そういった人たちを、どうやって見つけていくかが大事だということです。例えば、どの団体も「学校がなかなか固い、頭が固い」というが、教育委員を巻き込むとか、学校に影響力があるPTAなどを巻き込んでいくのはどうかというアイデアが出されました。

3番目のところは、地域の役に立っているという実績を作ることが大事。考え方が違うのは当たり前なので、そういったことを認め合うことも必要だということです。

4番目のところは、逆に反対意見というのは自分たちを改善するための意見なのだ、むしろほめることばかりだと改善することができなくなるから、反対されることのメリット、反対されることをどう解決するかということが大事なのだというお話がありました。

このようなお話がありまして、議論を終了しました。以上です。

**岸井** それぞれの分科会で、かなり多様で、活発なご意見の交換があったようです。せっかくの機会ですから、少し意見交換をしたいと思います。

共通の話題を探るのはなかなか難しいのですが、こういうことをやろうと思うと、人と、金と、仕組みが、コアなグループがあったとしてもそれをどうやって広げていくのか。既存の自治会であったり、学校であったり、いろいろな組織があるというところに協力を仰ぐのか、どうつながって行くのか。今、連携という言葉がありましたが、人を巻き込むとか人を集めるというところで、それぞれかなりご苦労があるようにお見受けしました。

私も、実は、今、渋谷で、shibuya1000というイベントを、今度の日曜から1週間ほどやるのですが、これで3年目になります。渋谷の大改造をやろうという企画があり、その大改造は20年ぐらいかかるので、その間渋谷のまちが死んでしまったら困るな、楽しく何かやっていないければ、まずいのではないかということで、内藤廣氏という建築家の方がいらっしゃいますが、2人でそんな話をしながら、鉄道のコンコースのところを利用させていただいて、写真を張るとか何かできないかということをやりに出して、最初はよく言っても、せいぜい学園祭に毛が生えたもの、展示物はそのようなものでしたが、写真は随分立派な写真を、これは若い写真家の方の協力を得てやりました。

それを1年目にやった後、2年目にはそのことを少し広げなければいけないということで、

私と内藤氏で区長のところに行って「こんなことをやっているのだ」と吹いて回って、区も「ちょっと応援しようか」という気になってくれました。

3年目は今年なのですが、いよいよ地元の方が入ってきまして、地元の商店会の皆さんが「何かやっているのは悪い話ではなさそうだ」ということで、最初は煙たそうな感じていたのですが、3年目になってくると「何か意味がありそうだね」と協力していただけるようになりました。その間、実際に人を動かすにはお金が要るので、お金をどう工面するかとかいろいろ悩みがあったのですが、少しずつ広がっていく感じがしています。

多分皆さんの活動も同じだと思うのです。一気に広がっていくということではなくて、それぞれ輪を広げる工夫をされていると思うのですが、もしその辺で、今日の発表の中でまだ十分に発言できていないという方がいらっしゃったら、「こんな知恵がありますよ」ということをご紹介いただけるといいと思います。

分科会の取り仕切りをやっていらした先生方のほうから、もしまとめていただいて「こんな取り組みがあったのですよ」というのを少しずつでも紹介していただけると、お話の種になると思うのですが、大谷先生のところはいかがでしたか。

**大谷** 最後の討論の方で、巻き込み方というものが話題になったのですが、状況をブレークスルーするような画期的なアイデアは特になくて、一人一人のネットワークが時間をかけて積み重なってきた、そういうネットワークを大切にされてきたというところかなという印象を受けました。

**岸井** 横山先生のところはいかがですか。

**横山** われわれの分科会もその話は出ていまして、例えば、たまたま声を掛けた人がいい会長なので、その方からずっと広がりを持たせていったというケースもあれば、大学などがかわかってうまく広がっていったような話は出ていました。

**岸井** 大学というのは、1つは使い勝手が良さそうな場所ではありますね、若い人がたくさんいますからね。

**横山** われわれのところも、船場アートカフェには大学が入ってきてやっているという内容だったので、その学生達もフィールドの研究という形で入っていたり、今井町の場合もそういう形で入っていて、世代交代に向かってまちがまとまるかなというようなこともあります。

**岸井** 田端先生のところはどうか。いかがですか。

**田端** 先ほどいろいろお話したので、私よりも、いろいろな環境を広くとらえることによって、参加者を上げていく方向でやっておられます、隣におられる大和郡山の磯氏の方からもしよかったらご紹介いただいた方がいいかなと思います。

**やまと郡山環境を良くする市民の会 磯** どこから話をしたらいいかわかりませんが。文化が、一番最後だと思っているのです。われわれは環境というものを、地球環境、自然環境、生活環境、歴史文化環境ととらえ、その逆作用しているのが環境問題だということで、自分たちで何かしなければいけないということでやっています。ただ、今お話しにあったように、環境面だけでは、人はなかなか集まらず、集まってくる人は毎回決まっているのです。それで、文化面ですね。郡山の場合はいろいろと歴史がありますので、そういう関係の催しを行っています。また観光ボランティアクラブと一緒にやってやる機会もありますので、郡山再発見という催しと一緒にやっています。そういうことをやって少しずつ浸透させていっています。

**田端** もう一つ、石井氏のところが、例えば、環境、もともと環境専門のところなのですが、それが違うところとコラボしていくというケースがあります。一つだけ言っていただければと思います。

**NPO法人 南港ウェットランドグループ 石井** 大阪南港野鳥園の石井です。大阪南港野鳥園は大阪市住之江区にあるのですが、住之江区の中で区民区画担当という、区民活動をするような部署があるのです。その中で、いろいろな企業あるいは地元NGO、僕らは特殊な環境の特殊な仕事なのですが、全く違う、木を扱うような職人とか、地域でいろいろなボランティアをやっている団体とか、そういったところで1つのネットワーク、CSOネットワークというものができているそうなので、今回からうちの職員を一人、毎回派遣して、その中で、住之江区で行われるいろいろな団体の発表の場で、いろいろな発表をさせていただきます。僕たちとは全然内容の違う団体の中でいろいろな発表をさせていただくことで情報を交換して、お互いに共通の部分があるはずなので、その部分をお聞きして、今度はこちら側からその団体に出向いて講師をさせていただいたりとか、いろいろな企画運営を今後できるのではないかなと思っております。

**岸井** 今日のこのような会合は、その一つの役割を担っているかなと思うのですが、私は時々思うのですがけれども、最近、やけに堅いことが多くて、いろいろな工夫をされてネットワークを作っている方たちがいらっしゃると思うので、もしよかったら、こんなことをやっていますよということをご紹介いただくといいと思うのですが、いかがですか。真正面からリストを探してやるのもありますが、いろいろな方法がありそうな気がするのですが、いかがでしょうか。会場の方からもどうぞ。

**NPO法人 南港ウェットランドグループ 男性** 同じ南港グループなのですが、やはり大阪は市が大きいものなので、絶えず連絡、絶えず顔を出しておく。大阪市港湾局の担当部署に顔を出しておく、あるいは大阪府の関係部署に顔を出しておく。顔つながりだけでも、昔は、何か絶えず会話を続けていけば、いずれは本音で話し合えるという体制が整えられる。ただ、問題点は、担当される方が2年3年で替わるという場合が多いので、そういったときの対応をまたゼロから構築していく。しかし、それを繰り返さない限りは、行政とのつながり、行政からどんなふうにバックアップをしてもらえるかというつながりが持てないので、絶えず顔を出して言葉を掛ける。

**岸井** 行政との関係もあるし、先ほど大学がいろいろやるのではないかという話がありました。大学とつながっているところで、どうやって大学を捕まえたかというのを、もしよろしければお聞かせ下さい。私は、大学は結構使えると思うのです。大学の方も、入学者の減少に悩んでいまして、こういう活動をしているというのは結構受けるのですね。社会に対して、面白そうだということで、大学はうまく使えば多少は役に立つのではないかなと思っているのですが、これまでの経験でいかがでしょうか。

**横山** 吹田辺りは保育園のお話が出来ませんか。

**特定非営利活動法人 吹田歴史文化まちづくり協会 尾浦** うちの企画の中で、ひとつ、子どもたちを対象とする月1回のイベントがあるのですが、そのときに地域、言ってみれば地元の、成蹊短大の学生たちが来てくださっているということがあります。その場合も、浜屋敷、そういった歴史文化まちづくり協会から正式にというよりも、やはりキーパーソンのような、

とても魅力的な、その企画をなさる方が自分で行かれて、向こうの大学の人とうまく気持ちが合っただけで、やはりきっかけは人だなと思います。うちの方で活動してくれた学生に対しては、こちらから「こういうことをしていただきました」というようなことを大学の方に返すということはありません。

**岸井** ほかのグループはいかがですか。

**大谷** こちらの第1分科会でも、嵯峨の鳥居本のところがそうですね。

**「うるわしのみち 愛宕街道古道を良くする会」推進協議会 今井** キャリア教育の一環で観光をテーマにした取り組みをちょうどされていたということもあって、嵯峨学区の嵯峨小学校、嵐山小学校、広沢小学校、嵯峨中学校、北嵯峨高校、この5校に協力していただき、また嵯峨芸術大学の学生も、行灯づくりで、こういった行灯を制作して、街道灯しに参加していただくというような取り組みをしているのです。最初は小学校の先生にだけお願いに行ったのですが、そのときに、その校長先生がたまたま「それなら、ちょうど今こういうキャリア教育の一環として観光をテーマにしているので、同じことをするなら京都市の5校一緒に参加させてほしい」という提案が逆にあって話が広がったという経緯がありました。嵯峨美大は別な形で一緒に参加していただいて、一緒にこの行灯づくりに参加していただいて、こちらでは長いこと一緒にしていただいています。

**岸井** 複数の大学をうまく使っているところはないですか。

**中区ふれあい事業推進委員会/中区域まちづくり考房歴史文化グループ 北野** 堺の中区ですが、今日発表させていただいたのは歴史文化なのですが、二つのテーマのグループがあり、もう一つ環境グループがあります。われわれの堺中区には、大阪府立大学があります。府立大学のどのような活動かは知らないのですが、環境問題を考える会、エコロスケという名前を付けて活動しています。例えば、堺でいろいろイベントがあったときに、ゴミを燃えるゴミとか燃えないゴミとか分別しますね、そういう指導をしたり、学生たちが出て行ってそういうイベントでゴミをきちんと捨てましょうということをしているわけです。われわれの環境グループは2年半ぐらい前から活動したわけですが、その途中から大阪府立大学と環境グループが組んで、きちんとゴミを捨てましょうということ、例えば、われわれの中区で8月に区民フェスタという大きなイベントがありますが、そのときにも学生に来ていただいて、いろいろと一般区民にゴミをきちんと捨てるのを指導したり、ぬいぐるみをかぶって「環境を大事にしましょう」というようなこともやっていただきました。行政の方につないでいただいたのか、府立大学から話があったのか、私はグループが違いますので分からないわけですが、われわれの堺中区には大阪府立大学がありますので、これは今後とも、環境グループは一緒にいろいろやっていこうということになっているようです。

**岸井** 大学は最初の一步が、敷居が高そうな感じがするので、今日いらっしゃる先生であるとか、研究生なども、そういうネットワークを作ってくださいと一歩目を出すと、僕たちがやっているのは、非常にいやらしいのですが、「他の大学は出ていますよ、おたくはこの近くの何で来ないの」と言うと、一生懸命出てくるのですね。大学はそのようなところがあって、今競争していますので、うまく使っていただけるといいのではないかと思います。

**田端** 複数の大学ということで、私の、兵庫大学の方では、兵庫県宍粟市という山の中なので、けれども、いわゆる限界集落のところでもあります。これは兵庫県の方の小規模集落元気作戦

での関係もあるのですが、そこは3つ大学が入っています。兵庫大学と神戸山手大学ともう一つ、それぞれテーマを変えているのです。例えば、神戸山手大学は、山のアロマ効果にかかわるような、兵庫大学は福祉をテーマにしましたけれども、そういうふうに、ある種、行政がうまく音頭取りをしています。同じ市内でも幾つか集落がありますので、集落ごとに分けて大学に入ってもらって活性化を図るといったようなことをやっているケースはあります。ちょっと行政の方もうまく工夫すれば、可能性は十分あると思います。

**岸井** 今日はわれわれ大学の人間が結構いるのでしゃべりにくいかもかもしれませんが、「大学なんか入れたらよくないよ、あかんよ」というようなグループや、どこかとやったら失敗したというところはありませんか。やはり注意しなければいけないところもあると思うのです。大学は大学でやはり自分のしたいことをしたいので、主導権を取ろうと思う人も出るかもしれません。個性の強い人が大学の先生をやっているケースも多いので、協調性があるかどうかは分からない。過去、そういう大学のグループとお付き合いして、「ここは注意したほうがいいよ」ということがもしおありでしたら、ご発言をいただけるといいのですが。関西はもう成功していますかね。

**船場アートカフェ 高岡** うちも成功例なのですが、大学が研究内容を共有し、そういう発表の場を提供する。大学の院生が研究したことを発表して、それでお互いに勉強するというのも必要だと思っています。

もう一つは、私学の大学で、インターンシップ制で1カ月ぐらいボランティアに来て業務内容を知るといった制度を取っている大学があるので、そういったところの活用も、今後は必要なのではないかなと思います。

**横山** 私のところもNPOなのですが、大学が入ってくると、大学の先生は「おれの考えたとおりにやりたい」と言うのです。「みんなで決めてみんなでやろうよ」と言っても、「おれの方針で行く」と言われると、それはそれで困ります。先生だし、どうしたものかと。いまさらいけないとは言えないし、フェードアウトをどうやっていくかということにとっても苦労したことがあります。

**岸井** だから一人はいけないのではないのでしょうか、多少何人が抱えておかないと。

**横山** そうですね。

**岸井** 私も役割を忘れていましたけれど、都市計画学会の関西支部というものが、そこでもいろいろとお手伝いをさせていただいているので、そういうことをもう少し学会としてもしっかりやらなければいけないのではないかと、たまたま「こんなところで、誰かいないかな」ということなら、ネットワークぐらいはありますので、ご紹介します。

ほかに質問等、人を巻き込むとか、こういうアイデアがあるとか、面白いものをお持ちとか、経験のある方はいらっしゃるでしょうか。情報発信の話も随分ありましたが、なかなか人にうまく伝えるということは難しいですね。どうぞ、フロアでどなたかご発言があれば、ご自由にご発言いただきたいと思います。よろしいですか。

**田端** 地域コミュニティの奥谷氏のところが、都市と町を、新住民の多いニュータウンと、旧住民の多いところを野菜市でつないでいる、これは一つのいい例だと思います。一回話を聞いていただければよろしいのではないかと思います。

**奈良県山辺郡山添村岩屋「風の会・青葉」 奥谷** うちの地域は三重県との県境にあり、8分車

で走れば、うちの村の2倍の人口がある三重県名張市の梅ヶ丘という住宅団地になります。うちの村は過疎と高齢化で、町は町でスーパーが無くなって、困っているのです。買い物に行こうと思っても、名張市内の大きなスーパーまでバスに乗っていかないと駄目なのです。そういった中で双方の利害が一致した。うちは何かできることをということで、たまたま朝市に取り組んだのですけれども、1回目やったら300人来てくれて、その7割は名張市の人ということで、2回目が200人。1回目は11万円、2回目は11万円、3回目は300人来て20万円の売り上げ。

自分のところでやっているだけではなくて、名張の団地へ出張販売してほしいという要請がありまして、12月にやりましたら8万2000円の売り上げ。今年の1月は9万4000円の売り上げ。今度は2月20日にやる予定なのですけれども、向こうから逆に歓迎されて、「ぜひこのような取り組みはもっとしてほしい」と。「町の中は商店が潰れていたり、買うところがないのだ。皆さんが来てくれるからそういったものが買えるのだ」と。田舎の方の人は「自分たちが近所に配って回ったら、こんなにもらってまたお返しをしなければ」と思っていたようなものが、実はお金になる。ある78歳のおばあちゃんは1回で4万円の売り上げました。「来年死ぬか、再来年死ぬか」と言っていた人が、結局儲かりだしたら「こんにゃくを植えた。2年後に収穫ができるのだけれども、今から植えておかないとこんにゃくを作れない」ということでこんにゃくを植えたのです。

徳島県上勝町のいろいろ産業というので、おじいちゃん、おばあちゃんが数百万あるいは1000万円ぐらい売り上げているということが有名になりましたけれども、それと同じような状況が、2年ぐらいの間で変化が起きてきているのです。お年寄りが元気になっていく、そのような点でもよかったのではないかなということで、町の人にも喜ばれる、田舎の人にも喜ばれる、そんな取り組みです。

**岸井** いろいろな取り組みがあって、意外なところにニーズがあって、喜ばれることも多々ある。われわれが自分たちで考え、やろうと思ったことをいかにして多くの人に伝えるか、あるいはそういうニーズ、種がどこかに見えたときに、パッとそれが手に届くというのは大変大事だなと思います。

この発表会は毎年やっていらっしゃるようで、非常にいいことだと思います。多くの方が交流を重ねる中で、失敗もあるかと思いますが、それはある程度はしょうがないことです。すべてが成功するほど甘くはないと思いますが、お互いに助け合うことができるパートナーが1つ2つ見つかってくれば、あとは芋づる式につながると思います。

Facebookというものが随分流行っているようですが、あのようなソーシャルネットワークのたぐいですよね。Face to Face、顔と顔とのネットワークでつながって、その日本版ができあがってくれるといいなと思います。われわれは今大学にありますが、もしお手伝いできることがあればやらせていただこうと思いますので、あまり毛嫌いなさらずにお立ち寄りいただけると、サービス産業でございますのでお手伝いしたいと思います。



#### [コーディネーター プロフィール]

##### ◆岸井 隆幸(きしい たかゆき)

(社)日本都市計画学会会長、日本大学理工学部土木工学科教授。1953年兵庫県生まれ。東京大学大学院修士課程を修了後、建設省に入省され、1992年からは日本大学専任講師、助教授を経て、1998年から日本大学理工学部土木工学科教授。2010年からは社団法人日本都市計画学会 会長。専門は都市計画。1995年(社)交通工学研究会 研究奨励賞、1997年日本大学理工学部学術賞ならびに2009年(社)日本都市計画学会 年間優秀論文賞を受賞。その他、社団法人土木学会 地下空間研究委員会委員長、環境省「中央環境審議会」臨時委員、東京都景観審議会会長など多数の委員を務める。主な著書に『次世代の都市構造に向けて一鉄道と地域との共益運営―』、『「道路」の機能と役割』、『都市計画の事業：計画を実行する手法』等がある。

#### [パネリスト プロフィール]

##### ◆大谷 新太郎 (おおたに しんたろう)

阪南大学国際観光学部准教授。1974年富山県生まれ。立教大学大学院観光学研究科観光学専攻博士課程後期課程修了。七尾短期大学専任講師、阪南大学国際コミュニケーション学部助教授(准教授)を経て2010年より現職。専門は観光マーケティング論、観光情報論。和歌山大学観光学部非常勤講師、日本観光ホスピタリティ教育学会理事、日本観光研究会関西支部事務局長、明石市観光振興基本構想懇話会副会長、敦賀市まちづくり検討会委員。共著に『観光事業論講義』、共同執筆に『観光実務ハンドブック』など。

##### ◆横山 葵 (よこやま あおい)

NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局長、(有)エイライン代表取締役。技術士(総合技術監理、都市及び地方計画/道路)。人と自然が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。また、地域が元気になる為に地域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡大の実践も手がけている。

##### ◆田端 和彦 (たばた かずひこ)

兵庫県生涯福祉学部社会福祉学科教授。1964年三重県生まれ。広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期修了。学術博士。1993年に広島大学助手、1995年、兵庫大学講師、同大学経済情報学部経済情報学科准教授を経て、2008年に生涯福祉学部発足により、現職。専門は地域経済学、地域政策論、地域福祉学。2007年まで兵庫県の外郭団体である(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構地域政策研究所で、主任研究員を務め、地域再生や競争力向上、コミュニティビジネス等に関する研究にあたった。著書に『参画と協働―理論と実践』他、また論文に「地域の産業創発の国際比較」、「地域の競争力向上とガバナンスのあり方」等がある。